

令和3年、吉備国は台頭する！
古代日本の中央は岡山(吉備国)だった！
第二回、定説への叛乱 in 岡山

東京・岡山歴史交流会<2日間>連続シンポジウム

日時:5月29日(土)、30日(日)
<午前10~5時> <午後1~5時>

場所:県立生涯学習センター(視聴覚室)

JR岡山駅東口、徒歩28分、車6~7分(駐車場有)(京山・池田動物園近く)

- (一日):45名(先着順)(コロナ対策のためマスク無しの方は入場不可)(予約無し)
- 会費:一般(一日2400円)、二日連続(4千200円)
- (女性の方・81歳以上の方・学生の方 割引します)

<メインテーマ>

- ◎奈良の箸墓古墳の被葬者は岡山(吉備)人か?
- ◎纏向遺跡の築造命令者は吉備の首長(崇神天皇)か?
- ◎造山古墳の被葬者は応神天皇か?
- ◎鬼の城の石敷き(敷石)は鬼の城が天皇の宮の証拠か?
- ◎邪馬台国の中心地は岡山(吉備国)備中?
- ◎京都秦氏とは移住した岡山秦氏の事?

挨拶:古川克行氏

不滅の講師陣:(岡山)出宮徳尚氏 佐藤光範氏 中西厚氏
丸谷憲二氏 高木寛治氏 谷山雅彦氏
岡将男氏 山田良三氏
(東京)木佐敬久氏、平山牧人(呼びかけ人)

主催:同交流シンポジウム実行委員会(東京)

協賛:岡山歴史研究会、歴研(全国歴史研究会)

シンポジウム実行委員会事務局:〒108-0023 東京都港区芝浦4-8-110 平山方
お問い合わせ:(FAX)03-3454-7753 (携帯)080-9654-2272

2日間 タイムスケジュール

5月29日(土) 10~5時		16:00	出宮徳尚氏
10:00	進行説明	16:50	終了(翌日説明)
	古川克行氏 挨拶	5月30日(日) 1~5時	
10:25	佐藤光範氏 講演	13:00	高木寛治氏 (講演)
11:10	中西 厚氏 (講演)	13:45	山田良三氏 (講演)
12:00	(昼食)	14:35	(参加者自由発言の時間)
12:55	丸谷憲二氏(講演)	15:10	平山牧人 (講演)
13:40	岡 将男氏(講演)	16:10	パネルディスカッション(講演者参加) -吉備研究の未来について-
14:35	谷山雅彦氏(講演)	16:45	終了
15:15	木佐敬久氏(講演)	17:00	二次会(会場未定)(誰でもOK)

ご協力の皆さん(順不同)

岡山代表:古川克行氏(岡山桃太郎の会事務局長)、黒田晋、知恵夫妻(岡山県郷土史家)、岡田 博氏(前古代吉備文化財センター)、出宮徳尚氏(岡山城天守閣専門員)、佐藤光範氏(岡山磐座研究家)、高木寛治氏(総社市磐座研究家)、合田憲隆氏(本隆寺住職)、津曲真人氏(熊山研究会)、小藪誠司氏(玉野市)、金田善敬氏(古代吉備文化財センター)、岡野進氏(熊山研究会会長)、谷山雅彦氏(総社吉備路文化館館長)、中西厚氏(大廻り小廻り研究家)

東京代表:前田豊氏(先古代史の会会長)、香川重善氏(善通寺文化財保護協会会員)、品川清氏(大阪吉備歴史研究家)、松川忠嗣氏(日本桃太郎の会会長)、岩崎純一氏(吉備巫女神道研究家)、山上智氏(古代宇佐研究家)、川副秀樹氏(東京神社研究家)、木佐敬久氏(元NHK年鑑編集長)

後援:(岡山)秦歴史保存協議会、本隆寺、(東京)先古代史の会、日本の歴史と文化を楽しむ会、岩崎純一学術研究所(IJAI)

不滅の講師陣とテーマ・内容紹介(順不同)

出宮 徳尚氏	古代吉備国を語る会会長	吉備の叛乱記録と造山古墳倭国大王陵論
<p>吉備の叛乱については昨年シンポで詳述しているが、その要因は倭国大王陵である造山古墳にあると考える。倭国大王系譜の発展的継承を図って整備制度化された皇統系譜は、大和中心主義による万世一系の神聖な天皇を公理としており、大王権に関わった他の地方勢力や氏族を全く排除してしまった、正史での叛乱は「みかどかたむけんこと」であり、叛乱記録は政局たりえる吉備出自の大王の存在を物語っている。</p>		
中西 厚氏	元岡山放送(株)、郷土史家	絵図で伝わる大廻小廻山城の伝承
<p>草ヶ部の大廻小廻山城は、総社の鬼城と同じく、国の指定史跡に指定されましたが、日本書紀などの史書には記されてなく謎に包まれています。大廻小廻山の麓の草ヶ部村に残された絵図には、古代山城の城壘や水門、そして古代の寺院跡や城戸が描かれています。核家族化の現代、皆さんと共に伝承の大切さを考えてみたいと思います。</p>		
高木 寛治氏	元岡山県内保健所長・精神科医	鬼城山・犬墓山・岩屋山は岩石信仰の聖地
<p>鬼ノ城のある鬼城山、峯続きの犬墓山と岩屋山は岩山で、各々幾つかの磐座が存在する。これらは巨岩の円陣を形成しているように見える。我国には縄文の昔から、岩石信仰ともいえる祭祀が行われてきたが、総社のこの地は、特筆すべき場所ではないか。時を経て、道教伝来や秦氏の到来、仏教と修験道の隆盛、鉱物採取の発展等で、岩石信仰の役割も変化しているが、今後とも大切にすべき聖地である。</p>		
丸谷 憲二氏	吉備国の語り部の会代表	吉備国語源考
<p>正徳3年(1713)「黄蕨之前州高島山松早氏寺略縁起」の黄蕨之前州に注目しました。「黄蕨」は吉備の最古の表記です。吉備国の語源「黄蕨」については、平成20年8月の吉備学会第2回歴史研究部会基調報告「吉備とは、なんぞや」で報告しています。</p>		
山田 良三氏	岡山歴史研究会事務局長	古代日本の宗教の中心地は岡山
<p>「古代日本の宗教の中心地は岡山である」とのテーマをいただいた。とある宗教家から「吉備中山が、日本宗教の霊的な中心地である」との話聞いたことはある。実証的証拠にはいまだに会えてはいないが、三備一作(現在の岡山県及び広島県東部)の宗教史を辿れば、浄土宗の法然、臨済宗の栄西、さらに幕末三大宗教の黒住教及び金光教教祖など、多くの宗教及び宗教人を排出した風土が吉備にあったことは間違いない。</p>		

谷山 雅彦氏	現総社吉備路文化館館長 元 総社市教育委員会文化課長	鬼ノ城の敷石と石敷について
<p>古代山城の「鬼ノ城」では石が多用されている。城壁は土塁と呼ばれる土を突き固めたものが中心であるが、この城壁に沿って敷石が施されているため石が目立つ。「鬼ノ城」では城壁に伴うものを敷石、門道に設けられた石を石敷と区別している。</p> <p>敷石は城壁の内・外に認められ、場内側では数段に施されている場所も確認されている。その状況から明らかに敷石は城壁保護のためのものである。敷石総面積は1万㎡を超える。</p>		
岡 将男氏	楯築サロン代表	古墳時代対応「資治通鑑」翻訳の意味
<p>中国の通史・編年体の「資治通鑑」は90年程前の訳だけで、現代語訳は入手困難。邪馬台国～古墳時代の、魏晉五胡十六国南北朝時代の基礎資料。雄略天皇時代の小説執筆の為に翻訳開始、99巻351年～144巻501年の97万字、年表・現代地名・グーグルマップ連動。ネットで「資治通鑑日本語訳古墳時代対応情報」で公開中。</p>		
佐藤 光範氏	郷土史研究家、岡山県磐座研究家	日本古代史の出発点は吉備から始まる。
<p>弥生時代の倭国最大のお墓は吉備の楯築墳丘墓。その上に置かれていた特殊器台は古墳時代のハニワになる。垂仁天皇の条に『いつまでもお墓から泣き声が聞こえてくるので代わりにハニワを置くことにする』とある。何を意味するのか—乃木大將がそうであった様に昔から『二君に仕えず』という風習がある。主の死の際忠臣はその器台にはいって亡き主に従ったのだろう。</p>		
木佐 敬久氏	元NHK放送文化研究所主任研究員(東京)	万葉集の蜻蛉島。ヤマト・香山は吉備の表現だ。
<p>万葉集は秘密裡に隠喩で吉備を表現している。昆虫のアキツをうたった蜻蛉島(紀の雄略天皇条も同様)は児島半島の事。2番の舒明天皇の国見の香山とは吉備の中山の事。更に注目されるのは柿本人麻呂の歌で、249、254、250、251、255、256、252、253番の羈旅歌八首、他に303、304の歌もこれらの歌の中の倭島や山跡島根も空間的、時間的に吉備しか想定出来ない。他に隋書の倭国伝の”倭国”とも吉備の事だ。</p>		
平山 牧人	東京吉備(岡山)文献研究会代表、呼びかけ人	古代吉備岡山の真実は熊襲の陰謀によって封殺されている
<p>メインテーマ解説。●奈良の纏向遺跡と箸墓古墳は吉備の支配下にあった●記紀の編者達は反吉備勢力の熊襲である。最悪なのは最初の吉備津神社創立時の神主加夜氏も熊襲だった●造山古墳の被葬者は応神天皇だ。応神天皇も熊襲出身か?●鬼ノ城は天皇の宮(天宮)。石敷き(敷石)がそれを証明する●邪馬台国(連合)の中心部は備中●熊山遺構に鑑真和上の骨蔵器が埋められている。吉備真備が工作。そのため以後今日まで真備は抹殺された?</p>		